| | <u> 9 川 同 寸 七</u> | 門学校 | 開講年》 | 度 令和05年度 | (<u>2023</u> 十尺) | 授業科目 | 日本語と文 | <u> </u> | | |
|------------------------------|---|---|---|---|--|---|--|--|--|--|
| 科目基础 | 楚情報 | | | | | | | | | |
| 科目番号 | | 0113 | | | 科目区分 | 一般 / | | 문 | | |
| 受業形態 | | | 授業 | | | 単位の種別と単位数 履修単位: | | | | |
| 開設学科 | | 商船学 | ————————————————————————————————————— | 対象学年 | 7 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 | | | | | |
| 開設期 | | 前期 | i-i | | 週時間数 | 2 | | | | |
| ^{1100,701} 数科書/教 | | | トを配布 | | 厄利的数 | 2 | | | | |
| 5/17 回 / 形 日当教員 | | 宮城 信 | | | | | | | | |
| ²³ 数度 到達目 | | | 1 | | | | | | | |
| 日本語に 解決する めの交流 | は、よく考; ことができ; などを通し | る。本講義 | っと不思議な表現 では専門知識の習 る技術も身につけ | 得と論理的思考加を | 本語学の専門知識を 磨くことを第一のE | と身につけること 目標とする。加え | によって、そのこと、問題意識を | ような疑問を論理的 明確にし課題解決の | | |
| ルーブ! | リツク | | | | I=34.4=13±. | | | | | |
| 評価項目1 | | | 日本語表現・ | 理想的な到達レベルの目安 日本語表現・文法の基本的な知識 を十分に身につけている。 | | 標準的な到達レベルの目安 日本語表現・文法の基本的な知識 を身につけている。 | | 未到達レベルの目安 日本語表現・文法の基本的な知 を身につけていない。 | | |
| 評価項目2 | | | 論理的な文章 | 論理的な文章について、読解、考察する力が十分にある。 | | 論理的な文章について、読解、考察する力がある。 | | 論理的な文章について、読解、 察する力がない。 | | |
| 評価項目3 | | | 十分に表現で | で自分の考えや調査を できる。 | 文章や口頭で自 表現できる。 | 文章や口頭で自分の考えや調査を | | 文章や口頭で自分の考えや調査表現できない。 | | |
| 学科の | 到達目標工 | 頁目との | 関係 | | | | | | | |
| MCCコア | '科目 | | | | | | | | | |
| 教育方法 | 法等 | | | | | | | | | |
| 概要 | | 講義や 日頃か する。 | 議論を参考に、達 ら日本語の表現が 本講義を通して、 | ことばについて考え | 考え理解する目を書 学を専門に学びたい ること、また考える | をう。 N人、理屈で考え Sことそのものに | ることが苦手な 新たな喜びを発 | 人に特に受講をお勧め 見して欲しい。 っていく。授業中の記 | | |
| 授業の進 | め方・方法 | 心がけ ^を 一部専 (授業 | る。 門的な知識につい 外学習・事前)前 | ても触れるので、不同 | 明な点はできるだけ | け早く解決し、翌 | !调に持ち越さな | きるだけ設けること [。] いようにすること。 文献などを読んで予 | | |
| | | | 外学習・事後)授 | 業内容を参照して、 | 言語表現について内 | 当省するなど復習 | | | | |
| 注意点 | | (授業を | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ | ないように理解して | 言語表現について内 おくこと、次回の内 | 当省するなど復習 | | 予習しておくこと。 | | |
| | 字件 定体 | (授業) 各回のI なお授 | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に | | 言語表現について内 おくこと、次回の内 | 当省するなど復習 | | 予習しておくこと。 | | |
| 授業の | 禹性・履(- / ヺ= | (授業) 各回のI なお授 | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 | ないように理解してる 応じて変更する可能 | 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 9省するなど復習 9容を予告する <i>の</i> | っでそれについて | | | |
| 授業の | 禹性・履作 ティブラーコ | (授業) 各回のI なお授 | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に | ないように理解してる 応じて変更する可能 | 言語表現について内 おくこと、次回の内 | 9省するなど復習 9容を予告する <i>の</i> | っでそれについて | 予習しておくこと。 験のある教員による! | | |
| 授業の □ アクラ | ティブラーニ | (授業) 各回のI なお授 | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 | ないように理解してる 応じて変更する可能 | 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 9省するなど復習 9容を予告する <i>の</i> | っでそれについて | | | |
| 授業の] アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 多上の区 ク | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 | ないように理解してる 応じて変更する可能 | 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 3省するなど復習 3容を予告するの さ | でそれについて | | | |
| 授業の] アクラ | ティブラーニ | (授業) 各回の「 なお授! 多上の区グ こング | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ業の内容は状況に分 分 □ ICT 利用 | ないように理解してで応じて変更する可能(| 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 3省するなど復習 3容を予告するの | でそれについて 実務経験 | 験のある教員による! | | |
| 授業の] アクラ | ティブラーニ | (授業: 各回の なお授: 多上の区: こング | 外学習・事後) 授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E | ないように理解してで応じて変更する可能(| 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | a省するなど復習 a容を予告するの | でそれについて □ 実務経 □ 実務経 ■標 は語について客観 | 験のある教員による!! ! !的に考える。 | | |
| 受業の] アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授: 多上の区グ ニング 週 1週 2週 | 外学習・事後) 授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語とE | ないように理解して 応じて変更する可能 本語の話をしよう 本語の特質 | 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 8省するなど復習 9容を予告するの 立 週ごとの到達 母語である日2 日本語の特徴 | でそれについて □ 実務経 目標 本語について客観 か外国語の違いな | 験のある教員による! 現的に考える。 こどを相対化する。 | | |
| 受業の] アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 多上の区グ 二ング 週 1週 2週 3週 | 外学習・事後) 授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語とE なぜ五十音図に | ないように理解してで応じて変更する可能性ができます。 | 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 図 当するなど復習 対象を予告するの がまます かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま かいまま か | でそれについて □ 実務経 目標 本語について客観 か外国語の違いな とと成立ついて学 | 験のある教員による! 現的に考える。 こどを相対化する。 | | |
| 授業の] アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授: 多上の区グ ニング 週 1週 2週 | 外学習・事後) 授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語とE なぜ五十音図に | ないように理解して 応じて変更する可能 本語の話をしよう 本語の特質 | 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 高省するなど復習 国容を予告するの 過ごとの到達 母語である日々 日本語の特徴や 五十音図の機能 仮名の表記法(| でそれについて □ 実務経験 目標 本語について客観 か外国語の違いな とと成立ついて学 こついて学ぶ。 | 験のある教員による! !的に考える。 などを相対化する。 ** | | |
| 授業の] アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 多上の区グ 二ング 週 1週 2週 3週 | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ業の内容は状況に分 一 ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E世界の言語と日 なぜ五十音図に | ないように理解してで応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか えんけく 」と書いては | 言語表現について戸 おくこと、次回の戸 生がある。 | 図書するなど復習 図字を予告するの 週ごとの到達目 母語である日本 日本語の特徴や 五十音図の機能 仮名の表記法(日本語の音の分 | でそれについて □ 実務経 目標 本語について客観 か外国語の違いな とと成立ついて学 こついて学ぶ。 分布、語種の分布 | 験のある教員による抗 説的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 5、国語辞典の構成な | | |
| 授業の] アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 タートの区グ 1週 2週 3週 4週 5週 | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語とE なぜ五十音図に なぜ「僕わ学校 (秘)シリトリ | ないように理解してで応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 | 調省するなど復習 対象を予告するの 過ごとの到達 母語である日本語の特徴や 五十音図の機能 仮名の表記法(日本語の音のが 日本語の音のが 日本語の音のが 日本語の語彙が | でそれについて □ 実務経験 目標 本語について客観 か外国語の違いな と成立ついて学 こついて学ぶ。 か 、 | 験のある教員による抗 説的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 5、国語辞典の構成な | | |
| 受業の 〕 アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授: 多上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 | 外学習・事後)授 対容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語とE なぜ五十音図に なぜ「僕わ学校 (秘) シリトリ 「海○王に、お | ないように理解してで応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか | 図では、 図でとの到達に のである日本語の特徴が 五十音図の機能が 仮名の表記法が 日本語の語彙が 日本語の語彙が 日本語の語彙が 日本語の語彙が | □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は | 験のある教員による!! 見的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な | | |
| 授業の] アクラ | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 タートの区グ 1週 2週 3週 4週 5週 | 外学習・事後)授 対容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語とE なぜ五十音図に なぜ「僕わ学校 (秘) シリトリ 「海○王に、お | ないように理解してで応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか | 図では、 図でとの到達に のである日本語の特徴が 五十音図の機能が 仮名の表記法が 日本語の語彙が 日本語の語彙が 日本語の語彙が 日本語の語彙が | でそれについて □ 実務経験 目標 本語について客観 か外国語の違いな と成立ついて学 こついて学ぶ。 か 、 | 験のある教員による!! 見的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な | | |
| 受業計画 | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授: 多上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 | 外学習・事後)授 対容を取りこぼさ 業の内容は状況に 分 | ないように理解してで応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い | 図でであるなど復習の容を予告するのである日本語の特徴である日本語の特徴である日本語の音のが日本語の音のが日本語の語彙では、日本語の語彙では、日本語の語彙では、日本語の語彙である。 | □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は □ は | 験のある教員によるが 配的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な なが。 | | |
| 受業計画 | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 | 外学習・事後)授 内容を取りこぼさ業の内容は状況に分 □ ICT 利用 授業内容 ガサアシニ語と 世界の言語とと なぜ「僕わ学校 (秘)シリトレ 「海○王にんとん はある、そうだ | ないように理解してで応じて変更する可能性があるの特質には穴があるのかに表行く」と書いてはい勝法ではなる!」は自然、叩く」と「肩をトン | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか | 調省するなど復習 対象を予告するの 過ごとの到達 母語である日本語の特徴 五十音図の機能 仮名の表記法(日本語の音彙の 日本語の語順(オノマトペの記 フィラーの種類 | □ 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 は 実務を を 関係 できます できます ままま できます ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま | 験のある教員によるが 配的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な なが。 | | |
| 受業の原 | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 多上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 | 外学習・事後)授 対容を取りこぼ式に 対容を取りこば状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語音図に なぜ「僕わ学校 (秘) 三にしよい 「肩をとか」「「肩をとか」「へえと、 「食べれる」は | ないように理解してで応じて変更する可能性を はいまうに できます を | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対力 いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか | 調省するなど復習 対象を予告するの 過ごとの到達 母語である日々 日本語の特徴 五十音図の機能 仮名の表記法(日本語の語彙の 日本語の語彙の 日本語の語彙の 日本語の語順(オノマトペの記 フィラーの種類 ち抜き言言葉と扱ういても再考。 | □ 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 は 実務を を 関係 できます できます ままま できます ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま ままま | 験のある教員による対 説的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な なが。 いて学ぶ。 いて学ぶ。 いて学ぶ。 いて学ぶ。誤用の認定 | | |
| 受業の原] アクラ 受業計画 | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 多上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 | 外学習・事後)授 対容を事後)授 対容を取りこぼれに 分 □ ICT 利用 授業内容 ガイダンス: E 世界の言語音と なぜ「僕わ学校 (秘) 王にんとん 「角ある、、そうだ 「食べれる」は 敬語を使うと本 | ないように理解してで応じて変更する可能性ができます。 本語の話をしようは本語の特質には穴があるのかでえ行く」と書いてはいがあるのかできながある。 ははなる!」は自然にいないではいないできます。 こったの」はどんな気 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか | 図では、 図でとの到達に のである日々 日本語の特徴や 五十音図の機能 仮名の表記法の日本語の語順の 日本語の語順の オノマトへの記 フィラーの種類 ら抜きも再考で 敬語の機能と述 | □ 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 実務経験 を は 実務経験 を は まま で | 験のある教員による対象のある教員による対象のに考える。 などを相対化する。 なが、 国語辞典の構成ななが、 で学ぶ。 いて学ぶ。 いて学ぶ。誤用の認定 | | |
| 受業の原] アクラ 受業計画 | 画 IstQ | (授業: 各回の なお授 多上の区が 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 | 外学習・事後)授 対学習を取りに 対容を取りに 対容を取りに が | ないように理解してで 応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 れはなる!」は自然 がればなる!」は自然 がったの」はどんな気 なごこが乱れた表現か 当に相手を敬ってい | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか | 国省するなど復習 できまするの できます できます できます できます できます できます できます できます | □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ 実務経 □ 実務について客 □ と成立ついて学 □ こいて学ぶ。 □ 予布、語種の分布 ○ 体系について学ぶ。 □ を機能について 立張的機能について 立張的機能について する。 ■ 国について学ぶ | 験のある教員によるが 説的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な なぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。」 「で学ぶ。」 | | |
| 受業の原] アクラ 受業計画 | ティブラーニ | (授業/ 各回の なお授 多上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 | 外学習・事後)授 対容を取りては状況に 対容を内容は状況に 分 □ ICT 利用 授業 内容 ガ界の内容 が表する。 世界である。 はがいます。 には、をいます。 「食べたといます。 「食べたしたいます。 「食べたしたいます。 「食べたしたいます。 「食べたしたいます。 「食べたしたいます。 「食べたしたいます。 「食べたしたいます。 「ないまななななななななななななななななななななななななななななななななななな | ないように理解してで応じて変更する可能性ができます。 本語の話をしようは一点でであるのからな行く」と書いてはは次があるのからな行く」と書いてはいか勝法をいけなる!」は自然はなる!」は自然につたの」はどんな気につたの」はどんな気についている人しば方でやねん」は方 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か | 国省するなど復習 できまするの できます できます できます できます できます できます できます できます | □ 実務経り □ 実務経り □ 実務経り □ 実務経り □ 実務経り □ について客ものと成立しいて学 こついて学ぶ。 ○ 市、語種の分布 ○ か不、語種の分布 ○ か不、語種の分布 ○ か不、語種の分で学 こついて学ぶ。 画感と機能について は、この機能について は、この機能について は、この は、この は、この は、この は、この は、この は、この は、この は、この は、この は、この は、この に、。 に、。 に、。 に、 に、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 に 、 | 験のある教員によるが 説的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な なぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。」 「で学ぶ。」 | | |
| 受業の原] アクラ 受業計画 | 画 IstQ | (授業/ 各回の なお授 を上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 12週 | 外学習・事後)授 対容を内容は状況に 対容を内容には状況に 分 □ ICT 利用 授業内容 ガプの内容 が 世界が 世界が でのので でのので が 他ので には、 でので でので でので でいる。 でい。 でいる。 でい | ないように理解してで応じて変更する可能性ができます。 本語の話をしようは一次があるのかででは、と書いてははの勝法ではなる!」は自然ではなる!」は自然であるのができませんな気にはなる!」は自然できないでもないでもない。 はに相手を敬っている。 はにはずる。はられてはいる。 はにはいる。 はにはいる。 はいないる。 はいるいる。 はいないる。 はいないるはいる。 はいないる。 はいないる。 はいないる。 はいないる。 はいないるはいる。 はいないるいないる。 はいないるいるはいるいる。 はいないるいるはいるいるいるはいないる。 はいないるいるいるいるいるいるいるいるいるいるいないるいるいるいるいるいるいるい | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 ② 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か | 国省するなど復習 できまするの できます できます できます できます できます できます できます できます | □ 実務経過 □ 実務経過 □ 実務経過 □ 実務経過 □ 実務経過 □ について客観を □ について学ぶ。 □ かれて学ぶ。 □ は一部でででする。 □ は一部ででする。 □ は一部ででする。 □ は一部できる。 □ について学ぶ。 □ は一部できる。 □ について学ぶ。 □ は、こついできる。 □ について学ぶ。 □ は、こついできる。 □ について学ぶ。 | 験のある教員によるが 説的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な なぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。」 「で学ぶ。」 | | |
| 受業の原] アクラ 受業計画 | 画 IstQ | (授業/ 各回の なお授 を上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 | 外学習・事後)授 対学習・事後)授 学習・取りに 対学の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授者 イタの ス : E E E E E E E E E E E E E E E E E E | ないように理解してで応じて変更する可能性がでであるのができます。 本語の話をしようは一体語の特質では穴があるのかででは、と書いてはでいた。 がある。と書いてはでいた。 がはなる!」は自然でいた。 ででいました。 はに相手を敬っていてはなんでやねん」は方でかなんでかねん」は方は何がかわいいのか | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 □ 遠隔授業対力 いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か | 国省するなど復習 国容を予告するの 過ごとの到達 母語であるの 日本語の特徴性 五十名の表記法(日本語のの語彙の 日本語のの語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語の語順に オノマラー言言も機能と 対表でし、 対象でし、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 、 | □ 実務経過 □ 実務経過 □ 実務経過 □ 実務経過 □ 実務経過 □ について客観 ・ 計画について学ぶ。 ・ 計画を表について学ぶ。 ・ 計画をと機能について学ぶ。 ・ 重風について学ぶ。 ・ 重用について学ぶ。 ・ 重用について学ぶ。 ・ 可運用について学ぶ。 ・ 可運用について学ぶ。 ・ でいて学ぶ。 | 験のある教員によるが 説的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 「、国語辞典の構成な なぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。 「で学ぶ。」 「で学ぶ。」 | | |
| 受業の原 | 画 IstQ | (授業 各回の なお授 を上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 11週 11週 13週 14週 | 外学習・事後)授 対学習・事後)授 学習・取りに 対学の内容は状況に 分 □ ICT 利用 授者 イタの ス : E E E E E E E E E E E E E E E E E E | ないように理解してで応じて変更する可能性ができます。 本語の話をしようは一体語の特質では穴があるのかでではなる!」は自然ではなる!」は自然であるのができまれた表現ができませんなる。 はどこが乱れた表現ができませんでした。 は何がかわいいのかではソコの不思議のででではソコの不思議にはなるには、 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 □ 遠隔授業対力 いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か | 国省するなど復習 国容を予告するの 過ごとの到達 母語であの特徴 五十音図の機能 仮名の語の語の語の 日本語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のである。 日本語のの語のの語のは、 日本語のの語のは、 日本とは、 日本とは、 方言、 日本とは、 方言、 日本に、 | □ 実務経り ま務経り ままででできます。 実務経り ままについて客観を を はこのできます。 ままについて学ぶ。 またのでは、 またのにしていて、 またのでは、 またのでは、 またのでは、 またのでは、 またのできないでは、 またのできないできます。 またのできないできないできないできない。 またのできないできないできない。 またのできないできないできない。 またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのでは、 またので | 験のある教員による対 配的に考える。 などを相対化する。 などが。 「、国語辞典の構成な が、。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 | | |
| 受業の原プアクラ | 画 IstQ 2ndQ | (授業 各回の なおり 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週 | 外学習・事後)授 対容を容の内容は状況に 対容を内容には状況に が | ないように理解してで応じて変更する可能性を応じて変更する可能性をある。 本語の話をしようは一体語の特質では穴があるのかでである。 を持たしたでは、必勝法ではなる!」は自然である。 でこが乱れた表現かでである。とこが乱れた表現がである。というはどんな気にはどんでいる。 は何がかわいいのかではソコの不思議に対して壊したのに「壊したのに「壊しためと総括 | 言語表現についてが おくこと、次回のが 生がある。 □ 遠隔授業対力 いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か | 国省するなど復習 国容を予告するの 過ごとの到達国 母語であの特徴性 五十名の表語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの | □ 実務経り ま務経り ままででできます。 実務経り ままについて客観を を はこのできます。 ままについて学ぶ。 またのでは、 またのできないでは、 またのできない。 またのできないできない。 またのできないできない。 またのできないできない。 またのできないできない。 またのできないできない。 またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのできない またのでは、 またのでは、 またのでは、 またのでは、 またのでは、 またのできない またのできない またのできない またのでは、 | 験のある教員による対 配的に考える。 などを相対化する。 などが。 「、国語辞典の構成な が、。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 | | |
| 受業の版 ファクラ 受業計画 前期 | 画 IstQ 2ndQ | (授業 各回の なおり 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 13週 14週 15週 16週 | 外学習・事後)授 対学容の内容は状況に 対学容を内容 回 ICT 利用 授 ガ 甲 世 な は 秘) 一 ICT 利用 授 ガ 界 の 五 三 三 日 に ん い で は を か 、 そ る こ こ こ と で は で は 下 「 食 語 を 力 」 に と ん こ で は で で は で で し ま で は で で し ま で は で で し ま で は ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま で で し ま | ないように理解してで 応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 いれはなる!」は自然 いのと「肩をトン こったの」はどんな気 さこが乱れた表現か 当に相手を敬ってい なんでやねん」は方 は何がかわいいのか は何がかわいいのかは中はソコの不思議 分で壊したのに「壊 とめと総括 | 言語表現について がおくこと、次回のか生がある。 □ 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か れた」というのか | 国省するなど復習 国容を予告するの 過ごとの到達国 母語であの特徴性 五十名の表語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの | □ 実務経過 □標 □ について字番を外国語の違いをと成立ついて学ぶ。 □ できませんでは、このでででである。 □ できませんでできません。 □ について学ぶ。 □ についてきまままままままままままままままままままままままままままままままままままま | 験のある教員による対 説的に考える。 などを相対化する。 などが。 「、国語辞典の構成な なが。 「学ぶ。 いて学ぶ。 誤用の認定 だ。 で学ぶ。 「学ぶ。 「学ぶ。 | | |
| 授業の版 フクラー 授業計画 前期 | 重 1stQ 2ndQ | (授業 各回の なお野 多上の区グ 1週 2週 3週 4週 5週 6週 7週 8週 9週 10週 11週 12週 13週 14週 15週 16週 16週 16週 | 外学習・事後)授 対学習・事後)授 学習・取りは状況に 分 □ ICT 利用 授力の内容 が □ ICT 利用 授力のの内容 が □ ICT 利用 授力ののので が □ ICT 利用 授力のので | ないように理解してで 応じて変更する可能性 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 いれはなる!」は自然 いのと「肩をトン こったの」はどんな気 さこが乱れた表現か 当に相手を敬ってい なんでやねん」は方 は何がかわいいのか は何がかわいいのかは中はソコの不思議 分で壊したのに「壊 とめと総括 | 言語表現について がおくこと、次回のか生がある。 □ 遠隔授業対が いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か れた」というのか | 国省するなど復習 国容を予告するの 過ごとの到達国 母語であの特徴性 五十名の表語のの語彙の 日本語のの語彙の 日本語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの語のの | □ 実務経過 □標 □ について字番を外国語の違いをと成立ついて学ぶ。 □ できませんでは、このでででである。 □ できませんでできません。 □ について学ぶ。 □ についてきまままままままままままままままままままままままままままままままままままま | 験のある教員による対 説的に考える。 などを相対化する。 なが、。 「、国語辞典の構成な が、。 で学ぶ。 いて学ぶ。誤用の認定 なる。 で学ぶ。 に学ぶ。 に学ぶ。 にで学ぶ。 にでいて学ぶ。 | | |
| 受業の原 ファクラ 受業計画 前期 | 画 IstQ 2ndQ | (授業/ 各の区グ 10回 10u 10u | 外学である。 ICT 利用 | ないように理解してで応じて変更する可能性を応じて変更する可能性をいまうは 本語の話をしようは 内でであるのかに え行く」と書いては 必勝法 にれなる!」は自然 いったの」はどんな気が はいた表現が はんでやねん」は方に 相手を敬っていなんでやねん」は方は 付がかわいいのかば 中はソコの不思議 けつで壊したのに「壊したのに「壊しためと総括 り達目標 | 言語表現についてがおくこと、次回のが生がある。 図 遠隔授業対別 いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か れた」というのか | 国省するなど復習 国容を予告するの 過ごで予告するの 一 との到達 日本 日本 日 | □ 実務経過程 実務経過程 実務経過程 実務経過程 実務経過程 について客観を と成立ついて学 こつい 語種のいて学 ごっかん 系につい 語種のいて学 ごっかん と機能につい 語感と 機能につい はまる。 単用についいて学 がら 正のいて学 がら できる。 本の 使 役表 語表 現 に して で で いて で で い で で まま まま まま に まま まま こと こう に こう に の に で まま まま まま に まま まま に まま まま まま に まま まま に まま まま | 験のある教員による対象のある教員による対象のある教員による対象のに考える。 などを相対化する。 なぶ。 は、国語辞典の構成ななが、。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 は、こついて学ぶ。 は、こついて総括し、簡単達レベル 授業週 | | |
| 受業計画を受験しています。 | 画 IstQ 2ndQ | (授業/ 各の区グ 10回 10u 10u | 外学等の内容 ICT 利用 | ないように理解してでであっています。 本語の話をしよう 本語の特質 は穴があるのか え行く」と書いては 必勝法 れはなる!」は自然 いったの」はどんな気 でこが乱れた表現か さんでやねん」は方 「姉」か「弟」かは何がかわいいのかけはソコの不思議 けで壊したのに「壊したのに「壊したのと総括 関達目標 学習内容の到達! | 言語表現についてがおくこと、次回のが生がある。 ② 遠隔授業対 いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か れた」というのか 目標 態度 | 国省するなど復習会を予告するの 一個ででであるののある特徴を表示であるののある特徴を表示であるののある。 日本十年のののあるののののののののののののののののののののののののののののののののの | □ 実務経過程 実務経過程 実務経過程 実務経過程 実務経過程 について客観を と成立ついて学ぶの分布 を できまたのでである。 おいて学ぶの分布を がって学ぶの は できまたの と 機能について は 張る。 単月について 学ぶの できまたの できまたの できます できます できます できます できます できます できます できます | 験のある教員による対 別的に考える。 などを相対化する。 なぶ。 こ、国語辞典の構成な なぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 について学ぶ。 別達レベル 授業週 合計 | | |
| 授業の版 フクラー 授業計画 前期 | 画 1stQ 2ndQ コアカリ= 合 割合 0 | (授業/ 各の区グ 10回 10u 10u | 外学である。 ICT 利用 | ないように理解してで応じて変更する可能性を応じて変更する可能性をいまうは 本語の話をしようは 内でであるのかに え行く」と書いては 必勝法 にれなる!」は自然 いったの」はどんな気が はいた表現が はんでやねん」は方に 相手を敬っていなんでやねん」は方は 付がかわいいのかば 中はソコの不思議 けつで壊したのに「壊したのに「壊しためと総括 り達目標 | 言語表現についてがおくこと、次回のが生がある。 図 遠隔授業対別 いけないのか な日本語か トン叩く」に違い 持ちを表すのか るのか 言か れた」というのか | 国省するなど復習 国容を予告するの 過ごで予告するの 一 との到達 日本 日本 日 | □ 実務経過程 実務経過程 実務経過程 実務経過程 実務経過程 について客観を と成立ついて学 こつい 語種のいて学 ごっかん 系につい 語種のいて学 ごっかん と機能につい 語感と 機能につい はまる。 単用についいて学 がら 正のいて学 がら できる。 本の 使 役表 語表 現 に して で で いて で で い で で まま まま まま に まま まま こと こう に こう に の に で まま まま まま に まま まま に まま まま まま に まま まま に まま まま | 験のある教員による対象のある教員による対象のある教員による対象のに考える。 などを相対化する。 なぶ。 は、国語辞典の構成ななが、。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 で学ぶ。 は、こついて学ぶ。 は、こついて総括し、簡単達レベル 授業週 | | |

| 分野横断的能力 | 10 | 10 | 10 | 10 | 120 | 10 | 130 |
|---------|----|----|----|----|-----|----|-----|